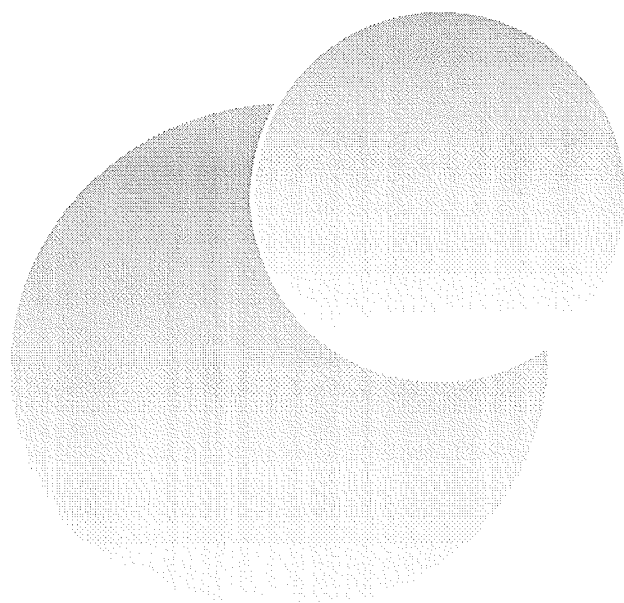


夏の無料公開セミナー

会計科目から始める

税理士試験学習法

簿記論・財務諸表論を1～2年攻略



★お得なキャンペーン情報

＜初学者対象＞

レギュラーコース・年内完結＋上級コース【教室講座限定】

早割キャンペーン ～9/1(日)まで ※詳しくは「夏得キャンペーンチラシ」をご覧ください

目 次

テーマ1	税理士試験について.....	1～4
テーマ2	簿記論・財務諸表論の同時学習について	5～7
テーマ3	レギュラーコースと年内完結コースの特徴	8～13
テーマ4	具体的な学習方法	14～17

テーマ 1

税理士試験について

1 受験資格

税理士試験を受験するには下記のいずれかの受験資格を有している必要があります。

1 学識

大学又は短大の卒業者で、法律学又は経済学を1科目以上履修したもの。または、大学3年次以上で、法律学又は経済学を1科目以上含む62単位以上を取得したもの。

(1) 法律学に属する科目の例

法学、法律概論、憲法、民法、刑法、商法、行政法、労働法、国際法等

(2) 経済学に属する科目の例

マクロ経済学、ミクロ経済学、経営学、経済原論、経済政策、経済学史、財政学、国際経済論、金融論、貿易論、会計学、商品学、農業経済、工業経済等

2 資格

(1) 日本商工会議所主催簿記検定試験1級合格者

(2) (社)全国経理教育協会主催簿記能力検定試験上級合格者

3 職歴

(1) 法人又は事業を行う個人の会計に関する事務に3年以上従事したもの

(2) 銀行、信託会社、保険会社等において、資金の貸付け・運用に関する事務に3年以上従事したもの

(3) 税理士・弁護士・公認会計士等の業務の補助事務に3年以上従事したもの

なお、受験資格を有するかどうか判断しかねる場合には、「国税庁内国税審議会税理士分科会」にお問い合わせ下さい。

2 税理士試験の日程

例年7月下旬から8月上旬の平日3日間に行われます。試験時間は、全科目とも2時間です。また、合格発表は、例年12月中旬に行われます。

③ 税理士試験の科目

1 税理試験の全科目（全11科目）

会計科目		税法科目								
簿記論	財務諸表論	法人税法	所得税法	相続税法	消費税法	酒税法	固定資産税	事業税	住民税	国税徴収法

税理士試験の合格基準は、各科目ともに満点の60%（すなわち60点）とされていますが、出題されている問題の難易度やボリュームに関わらず、各科目の合格率はほぼ毎年10～20%で安定しています。つまり、税理士試験は全受験者のうち上位10～20%が合格する競争試験といえることができます。

(1) 会計科目

科目	理論	計算	内 容
簿記論	—	100点	企業が行った取引をどのように会計帳簿に記録するかを学習する科目
財務諸表論	50点	50点	株主等に報告するための財務諸表を作成するまでの考え方や約束事について学習する科目

(2) 税法科目

科目	理論	計算	内 容
法人税法	50点	50点	会社の儲けに対して課される税金について定めた法人税法の考え方を学習する科目。
所得税法	50点	50点	個人の儲けに対して課される税金について定めた所得税法の考え方を学習する科目。
相続税法	50点	50点	財産が無償で個人から他の個人に渡った場合に財産を取得した者に課される税金について定めた相続税法の考え方を学習する科目。
酒税法	30点	70点	アルコール飲料に対して課される税金について定めた酒税法の考え方を学習する科目。

科 目	理 論	計 算	内 容
消 費 税 法	50点	50点	商品の販売やサービスの提供などに対して課される税金について定めた消費税法の考え方を学習する科目。
固定資産税	50点	50点	土地・家屋・償却資産等の固定資産に対して課される税金について定めた地方税法という法律の中の固定資産税編について学習する科目。
事 業 税	70点	30点	事業活動を行う法人又は個人等に対して課される税金について学習する科目。
住 民 税	50点	50点	所得のある個人及び法人等に対して課される税金について学習する科目。
国税徴収法	100点	——	国税の徴収のみならず、地方税等の徴収のベースを学習する科目。

参考 最近5年間の科目別合格率の推移

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
簿 記 論	14.2%	9.9%	12.5%	14.8%	18.8%
財務諸表論	16.1%	16.0%	13.1%	16.6%	20.7%
法人税法	11.0%	12.1%	12.6%	12.5%	12.6%
所得税法	12.8%	13.4%	14.3%	13.4%	12.3%
相続税法	12.4%	14.7%	13.9%	11.6%	12.8%
酒 税 法	10.8%	10.4%	12.3%	12.3%	12.4%
消 費 税 法	13.3%	12.4%	12.3%	13.7%	12.4%
固定資産税	10.3%	10.0%	10.5%	12.2%	17.0%
事 業 税	10.1%	13.8%	11.9%	17.1%	9.9%
住 民 税	14.6%	18.2%	16.2%	16.5%	16.5%
国税徴収法	11.1%	11.3%	12.1%	13.3%	13.6%

4 税理士試験の特徴

1 科目選択制度

税理士試験は全11科目から5科目を選択し、5科目合格を達成することで税理士試験の合格となります。試験科目の選択には、下記の表で示すような必須科目・選択必須科目等の制約もありますが、自分自身の将来像に合わせた科目選択を行うことができます。

会計科目		税法科目									
必 須		選択必須		選 択							
簿記論	財務諸表論	法人税法	所得税法	相続税法	消費税法	酒税法	固定資産税	事業税	住民税	国税徴収法	

(注1) 法人税法と所得税法はどちらか1科目を必ず合格しなければなりません、両方を受験し、合格科目とすることもできます。

(注2) 消費税法と酒税法は、どちらか1科目しか選択できません。

(注3) 事業税と住民税は、どちらか1科目しか選択できません。

2 科目合格制度

科目合格制度とは、1科目ずつ受験することができ、1度合格した科目は生涯有効になる制度です。つまり、1度の受験で5科目すべてに合格する必要はなく、毎年少しずつ合格科目を積み重ねることにより、複数年かけて5科目合格を達成すればよいのです。例えば1年に1科目ずつ受験し、確実に合格を積み重ねれば5年で税理士になる資格を取得することができます。

また、就職や転職にあたり科目合格の段階でも評価されるため、5科目そろっていないくても、一つでも多くの科目を合格している状態が有利に働くメリットがあります。

テーマ 2

簿記論・財務諸表論の同時学習について

1 簿記論の特徴

簿記論は、企業が行った取引をどのように会計帳簿に記録するかを学習する科目です。

試験問題は計算問題のみで構成され、第1問及び第2問では大学教授が出題することから学問的な個別問題が、第3問では実務家が出題することから実務的な総合問題が多く出題されています。

設 問	配 点	特 徴
第一問 (計算)	25点	・ 会計処理に関する個別問題が多く出題されている。 ・ 出題論点は、特殊商品販売などの伝統論点から連結会計などの最新論点まで多岐にわたっている。
第二問 (計算)	25点	・ 出題形式も、仕訳を問う問題や会計帳簿・財務諸表における特定金額を算定させる問題など様々なものがある。
第三問 (計算)	50点	・ 決算整理後残高試算表を作成させる総合問題（決算整理型の総合問題）が多く出題されている。 ・ 総合問題は、構造論点を含んだものが出題されることが多い。

参考 簿記論の学習システム

TAC簿記論では、本試験の出題傾向に対応するため、会計処理に関する論点を網羅した学習内容を採用しています。

また、本試験に完全に対応した演習問題を通じて、問題を取捨選択し、確実に合格点を獲得できる能力を養うことができます。

2 財務諸表論の特徴

株主等に報告するための財務諸表を作成するまでの考え方や約束事について学習する科目です。

試験問題は理論問題と計算問題で構成され、理論問題では会計処理や表示方法に関する考え方や制度会計上の取扱いが論述形式等で出題され、計算問題では株主等に提出するための財務諸表を作成させる問題が出題されています。

設 問	配 点	特 徴
第一問 (理論)	25点	・ 会計処理や表示方法の考え方や制度会計上の取扱いに関する穴埋問題、○×問題、論述問題などが出題されている。
第二問 (理論)	25点	・ 出題論点は、企業会計原則などの伝統論点から、企業結合基準などの最新論点まで多岐にわたっている。
第三問 (計算)	50点	・ 株主等に提出するための財務諸表を作成させる総合問題（決算整理型の総合問題）が出題されている。 ・ 総合問題は、オーソドックスなものが出題されることが多い。

参考 財務諸表論の新・学習システム

TAC財務諸表論（理論）では、暗記の負担を最小限に抑えて、内容の理解を最優先に考えた学習内容にリニューアルしています。

- ① 文章として暗記すべき部分とキーワード・キーセンテンスとして暗記すべき部分とを明確に区別することにより、理論の暗記量を大幅に削減しています。
 - ② 本試験の出題傾向に対応するため、穴埋問題、選択問題、○×問題などの理解を確認するための新教材（ポイントチェック）を導入しています。

また、TAC財務諸表論（計算）では、計算の学習内容や演習問題を厳選することにより、簿記論と財務諸表論、財務諸表論と税法科目の同時学習が可能な学習内容を採用しています。

③ 簿記論・財務諸表論の同時学習の相乗効果

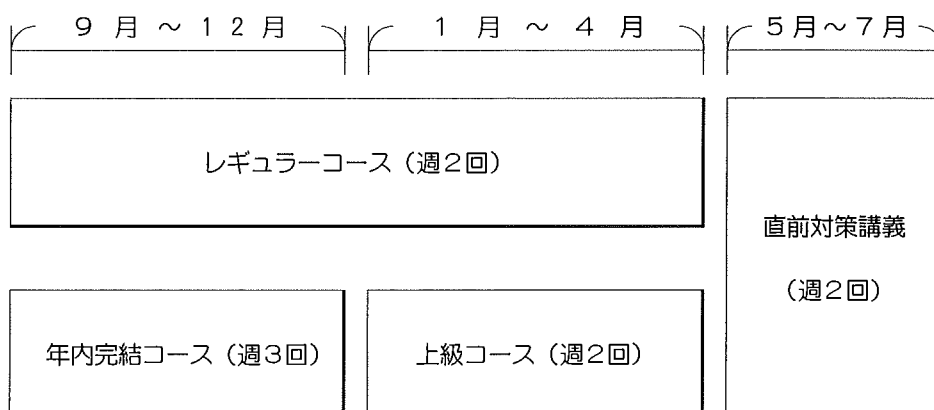
簿記論と財務諸表論（計算）では、会計処理（仕訳）の部分が重複しているため、簿記論と財務諸表論を同時に学習することで、以下のような相乗効果を期待することができます。

- ① 簿記論と財務諸表論（計算）のトレーニング（問題集）には、類似した問題も収録されているため、学習の負担を軽減（特に復習時間を短縮）させることができる。
- ② 同一の論点について、各科目の特性に応じた講義を受けることができるため、多角的に学習することができ、理解が深まりやすい。
- ③ 財務諸表論（理論）では、会計処理の根拠や考え方を学習するため、簿記論の学習においても理解に基づいた学習を行うことができる。

テーマ 3

レギュラーコースと年内完結コースの特徴

1 コースの概要



1 レギュラーコース

レギュラーコース（週2回）は、初めて受験される方を対象に、9月から4月までの8カ月間にわたって学習内容を確認し、ストレート合格を目指すコースです。

2 年内完結+上級コース

年内完結コース（週3回）は、初めて受験される方を対象に、9月から12月までの4カ月間にわたってハイペースで学習内容を確認し、1月以降は受験経験者を対象とした上級コース（週2回）に合流するコースです。

上級コース（週2回）は、受験経験者を対象に、1月から4月までの4カ月間にわたって本格的な実践演習を行うコースです。

参考 講義回と演習回の比較

		レギュラー	年内完結+上級
9月~12月	講義回	26回	41回
	演習回	4回	4回
1月~4月	講義回	26回	15回
	演習回	4回	15回
5月~7月	講義回	10回	10回
	演習回	9回	9回
総回数	講義回	62回	66回
	演習回	17回	28回

2 コースの特徴

1 レギュラーコースの特徴

- ①じっくり時間をかけて学習を進めることができるため、忙しい社会人の方や複数科目を受験される方でも、確実に学習を進めることができる。
- ②計算問題の解答手順や解答方法、理論問題の読解方法や合格答案の作成方法を紹介するための講義（得点力養成講義）が設けられている。
- ③開講クラスが豊富である。

2 年内完結+上級コースの特徴

- ①講義時間を含めて、多くの学習時間を確保することが必要となるため、受験に専念できる学習環境が必要となる。
- ②年内の学習において学習範囲の80%程度を網羅することができるため、年明以降は復習や演習に重点を置いて学習を進めることができる。
- ③受験経験者とともに上級演習に参加することができるため、ハイレベルな実践演習を行うことができる。
- ④開講クラスが渋谷校の平日（月・水・金）クラス及び通信講座に限られている。

3 科目選択・コース選択

1 学習可能時間の把握

学習モデル（社会人の場合）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(財表)	睡眠
8:00	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由	自由
10:00	会社	会社	会社	会社	会社	移動(暗記)	
12:00						講義 (財表)	
14:00						休憩	
16:00						講義 (財表)	
18:00						休憩	
20:00	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	復習(財表)	
22:00	講義 (簿記)	自由 復習(財表)	自由 復習(財表) 復習(簿記)	講義 (簿記)	自由 復習(財表)	復習(簿記) 移動(暗記)	
0:00	移動(暗記) 自由	自由	自由	移動(暗記) 自由	自由	自由	
2:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
4:00							

※ 移動時間などの細切れの時間を利用して財務諸表論の理論を暗記すれば、より多くの学習時間を確保することができます。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00							
8:00							
10:00							
12:00							
14:00							
16:00							
18:00							
20:00							
22:00							
0:00							
2:00							
4:00							

学習可能時間	時間
--------	----

2 科目選択・コース選択

(1) 週25時間未満の場合

簿記論	レギュラー	又は	簿記論	年内完結
-----	-------	----	-----	------

(2) 週25時間程度の場合

簿記論	レギュラー	+	財務諸表論	レギュラー
-----	-------	---	-------	-------

(3) 週30時間程度の場合

簿記論	年内完結	+	財務諸表論	レギュラー
-----	------	---	-------	-------

(4) 週35時間程度の場合

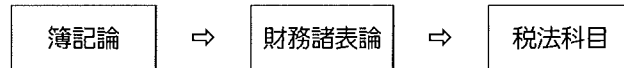
簿記論	年内完結	+	財務諸表論	年内完結
-----	------	---	-------	------

簿記論	レギュラー	+	財務諸表論	レギュラー	+	税法科目	(※)
-----	-------	---	-------	-------	---	------	-----

※ 消費税法・酒税法・固定資産税・国税徴収法のいずれかがお勧めです。

参考 科目選択の優先順位

簿記論・財務諸表論は、同時に学習するのが理想ですが、そのためには、最低限の学習可能時間（25時間程度）を確保することが必要となります。なお、学習可能時間が週25時間未満の場合には、まず「簿記論」を受験し、「財務諸表論」は2年目以降に受験することをお勧めします。また、簿記論・財務諸表論の知識は、法人税法・所得税法などの他の税法科目の学習で必要になる場合がありますので、簿記論・財務諸表論を受験した後に受験することをお勧めします。



参考 学習可能時間の算定方法

1 科目選択	
(1) 簿記論（レギュラーコース）	(2) 財務諸表論（レギュラーコース）
・授業 ⇒ 3時間	・授業 ⇒ 3時間
・授業の復習 ⇒ 3時間	・授業の復習 ⇒ 3時間
・過去の論点の復習 ⇒ 1時間	・過去の論点の復習 ⇒ 1時間
7時間	7時間
↓ ×週2回	↓ ×週2回
14時間	14時間

2 科目選択	
(1) 簿記論（レギュラーコース）	(2) 財務諸表論（レギュラーコース）
・授業 ⇒ 3時間	・授業 ⇒ 3時間
・授業の復習 ⇒ 3時間	・授業の復習 ⇒ 1.5時間 相乗効果！
・過去の論点の復習 ⇒ 1時間	・過去の論点の復習 ⇒ 1時間
7時間	5.5時間
↓ ×週2回	↓ ×週2回
14時間	11時間

テーマ 4

具体的な学習方法

1 講義について

1 講義はすべて受講する

各回の講義では、各回の論点を分かりやすく説明するとともに、各回の問題を解答する際の解答手順や解答方法、各回の学習方法を詳しく紹介していきます。論点が十分に理解できていなかったり、問題の解答方法を知らなければ、問題の解答に多くの時間を費やすことになります。そのため、各回の学習を効率良く進めていくためには、各回の講義に参加し、講師の説明やアドバイスに積極的に耳を傾けることが大切です。

また、講義を欠席する（受講を遅らせる）ことは、学習を滞らせる原因となります。1～2回分の遅れであれば容易に取り戻せるかもしれませんが、3～4回分の遅れとなると簡単に取り戻すことはできません。積み重なった遅れを取り戻すためには、膨大な時間と労力を費やすことになります。講義を欠席する（受講しない）ことは、苦手論点を作る原因にもなりますので、講義は遅らせることなく、定期的に受講するようにしましょう。

学習を継続するためには、規則正しい学習のリズムを作ることが大切です。TACの講義は、毎週決まった曜日、決まった時間に規則正しく行われますので、これをペースメーカーとして利用すれば、規則正しく学習を行うことができます。

しかしながら、急な仕事や体調不良等の理由により、やむを得ず欠席しなければならない場合があります。TACでは、そのような事態に備えて、以下のようなフォローシステムを採用しています。

欠席時のフォローシステム

- (1) クラス自由出席制
- (2) 音声DL（ダウンロード）フォロー
- (3) Webフォロー（有料）
- (4) ビデオ（DVD）フォロー（有料）

2 講義はメモを取りながら受講する

簿記論・財務諸表論の科目に合格するためには、会計処理や会計理論（会計処理の考え方や制度会計上の取扱い）を覚えることが必要となります。これらは無味乾燥な状態ではなかなか覚えられませんが、「なぜそのような会計処理を行うのか？」「同じような会計処理を行うものはないか？」のように、論点の背景や他の論点との繋がりを把握することで比較的容易に覚えることができます。

各回の講義では、論点の内容だけでなく、その論点の背景や他の論点との繋がりなども紹介していきますので、講義を受講する際には、積極的にメモを取りながら受講するようにしましょう。

3 疑問や悩みは講師に質問・相談する

学習を進めていく上で疑問や悩みが生じたら、1人で考え込まずに、講師に質問・相談するようにしましょう。講師は税理士受験の先輩でもあります。受験生時代に皆さんと同じような苦労や経験をしていますので、適切なアドバイスが受けられるはずです。

参考 スクーリング制度

すべての通信講座には、「スクーリング制度（教室で無料受講できる制度）」が設けられています。教室の臨場感を味わいたい場合や、他の受講生のレベルを知る上で大変有用です。

2 復習について

税理士試験は筆記試験ですので、講義を受ただけで合格できる試験ではありません。講義で理解した知識を、問題を解答できるレベルまで引き上げていかなければいけません。問題を解答できるレベルまで引き上げるためには、計画的・規則的に学習を進めていくことが必要となります。そのためには、学習スケジュールを立てて、それに基づいて学習を進めていくことが大切です。

1 無理のない学習スケジュールを立てる

生活の中での優先順位を考えて、ゆとりをもった学習スケジュールを立てましょう。

学習スケジュールの作成にあたっては、次の順序で埋めていくとよいでしょう。

学習スケジュールの作成方法

- (1) コアタイム（睡眠、食事、移動、就業時間や大学講義、TACの講義など）を記入する。
- (2) 各科目ごとの復習時間を記入する。
- (3) フリータイム（休息日、息抜きをする時間など）を必ず設ける。

2 生活リズムを朝型にシフトする

合格者の中には「生活リズムを朝型にして、学習時間を確保した。」という方がたくさんいます。それは、夜の疲れ切った頭で学習するよりも、朝のすっきりした頭で学習した方が効果的だからです。短い時間ではありますが、時間が制約される分、かえって集中することができ、効率良く学習することができます。

3 復習するタイミング

(1) できるだけ早く復習する

講義で学習した内容も時間の経過とともに徐々に忘れてしまいます。学習内容を効率よく身につけるためには、講義を受けた後、できるだけ早く復習することが大切です。

(2) 毎日学習する

講義で理解した内容を定着させるためには、問題を反復的に解答したり、覚えた事項を反復的に確認することが必要となります。短い時間でも構いませんので、毎日学習することを心がけましょう。

(3) 理論の暗記は細切れの時間を利用する

合格者の中には、「理論の暗記は、細切れの時間を利用した」という方がたくさんいます。理論の学習は暗記が中心となりますので、暗記用の教材（ポイントチェック）を常に携帯して、細切れの時間を上手く使って学習するようにしましょう。

③ テストについて

TACでは、前回の学習内容を確認するため、各回の講義の冒頭で「ミニテスト」を実施します。また、これまでの学習内容が定着できているかを確認するため、各月毎に「実力テスト」を実施します。さらに、直前期においては、本試験の想定問題である「答練」を繰り返し実施していきます。

1 テストはすべて受けて、必ず提出する

テストは、各講義毎、各月毎に規則正しく行われますので、これをペースメーカーとして利用すれば、規則正しく復習を行うことができます。

TACでは、皆さんが解答した答案を講師が採点していきます。特に理論の答案は、独りよがりになりがちですので、テストは必ず提出をして、講師のチェックを受けるようにしましょう。

2 自分の弱点を把握し、それを克服する

テストの目的は、「自分の弱点を発見すること」にあります。膨大な学習内容を網羅するためには、定期的にテストを受けて、自分の弱点を把握し、それを克服していくことが必要となります。また、テストを受けて、自己の現状を把握することは、学習のモチベーションを維持することにも繋がります。

最 後 に

本日は、お忙しい中、当セミナーにご参加頂きありがとうございました。
税理士という仕事は本当に魅力ある職業ですので、是非ともチャレンジして下さい。TAC税理士講座一同、皆さんの1年でも早い税理士試験合格をサポート致します。